

ナミビア月報

(2020年5月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- カシंगा記念日
- 独立30周年を記念し、1,000人以上に大統領恩赦
- アフリカデー記念日に寄せた大統領メッセージ
- 財務大臣による2020/2021年度予算案の提示

【外交・対外関係】

- 独、700百万ナミビアドルの開発援助実施
- 中国大使、新型コロナウイルス中国責任論に反論
- 米国新大使館建設で2,000人の雇用創出、3億ナミビアドルの経済効果
- ホセア・クタコ国際空港拡張計画に対する中国ローン
- 上海市からの新型コロナウイルス対策支援

【経済】

- 一時給付金(一人当たり750ナミビアドル)を約57万6千人に支給

【その他】

- 1月以降E型肝炎感染者は600人を超え、マラリアによる死者は23人
- 新型コロナウイルス感染者数は45日ぶり2人増え18人に
- 新型コロナウイルス感染者は23人に

【内政】

●カシंगा記念日

4日、カシंगा記念日を迎えた。例年、カシंगा記念日には、カシंगा虐殺事件の生存者を中心に犠牲者を追悼する式典が催されてきたが、今年は新型コロナウイルス(Covid-19)の影響を受け、ガインゴブ大統領が3月に緊急事態宣言を発出し大規模集会在禁止されていることから、例年と異なり静かな記念日となった。カシंगा記念日は、南アフリカ統治下の1978年5月4日、アンゴラ南部に位置するカシंगाのSWAPO 難民キャンプを南ア空軍が空爆し、約600人が虐殺され、約400人が負傷した事件の追悼記念日であり、ナミビアの休日となっている。(5日付ナミビアン紙6面)

●独立 30 周年を記念し、1, 000 人以上に大統領恩赦

ガインゴブ大統領は、ナミビア独立 30 周年を記念して 1, 023 人に対して大統領恩赦を与える意向である。カポフィ内務・移民・安全保障大臣は、恩赦対象者について、軽犯罪者で 60 歳以上、矯正施設に収監中規律を維持し、優れた人格を示してきた者である旨述べ、また、殺人、強姦、反逆罪等の重犯罪者は対象とならない旨述べた。具体的な恩赦対象者は官報に掲載後 6 月 21 日に公表される予定である。(22 日付ニューエラ紙 1 面)

●アフリカデー記念日に寄せた大統領メッセージ

25 日、ガインゴブ大統領はアフリカデー（注：1963 年 5 月 25 日に設立されたアフリカ統一機構（OAU）設立記念日、2002 年に OAU はアフリカ連合（AU）に移行）に際して、メッセージを発出した。ガインゴブ大統領は、同メッセージで、アフリカは経済的解放と社会的発展という共通の目標を達成するため、その豊かな文化的多様性を活用して行く必要がある旨、また、第 3 波のリーダーシップとも言うべき現在のアフリカにおけるリーダーシップの基本原則は、包括性である、包括的ガバナンス無くして何事も成し得ない、排他性は衝突を意味し、包括性は調和を意味する旨等述べた。(27 日付ニューエラ紙 3 面)

●財務大臣による 2020/2021 年度予算案の提示

27 日、シイミ新財務大臣は 2020/2021 年度予算案を国民議会に提示した（注：例年 3 月末に提出されるもの）。新型コロナウイルスの影響下で税収の落ち込みから同予算案は 514 億ナミビアドルの歳入（昨年度：584 億ナミビアドル）に対し、728 億ナミビアドルの歳出（昨年度：665 億ドル）を計上しており、214 億ナミビアドルの歳出超過（昨年度：82 億ナミビアドルの歳出超過）となる。これにより、政府の債務総額は 1,170 億ナミビアドル（対 GDP 比 68.7%、昨年度予算案の政府債務総額は対 GDP 比 54.8%）となり、初めて政府債務総額が 1,000 億ナミビアドルを超えることとなる。シイミ財務大臣は、今年のナミビアの実質 GDP 成長率は -6.6% と見込まれ、南アフリカは同 -5.8%、アンゴラは同 -1.4% と見込まれる旨説明した。

なお、主な省庁ごとの昨年度予算案と本年度予算案とを比較すると（単位：百万ナミビアドル）、内務・移民・安全保障省：5,550.9→5,434.9、国防・退役軍人省：5,884.8→6,229.1、財務省：4,409.3→6,219.5、教育・芸術・文化省：13,767.7→14,185.7、高等教育・技術・イノベーション省：3,137.4→3,301.7、保健・社会サービス省：6,868.3→7,951.3、農業・水・土地改革省：1,959.3→1,337.4、ジェンダー・貧困撲滅・社会福祉省：3,592.7→5,255.1。
(28 日付ニューエラ紙 1 面、ナミビアン紙 1 面、ナミビアンサン紙 1 面、コンフィデンテ紙 1 面)

【外交・対外関係】

●独，700 百万ナミビアドルの開発援助実施

カンジョゼ国家計画委員会長官は，ゲルツ独臨時代理大使との間で，無償資金・技術協力に関する総額 700 百万ナミビアドル（約 35.3 百万ユーロ）の合意文書に署名を行った。同合意は 2019 年ナミビア・独開発協力に関する政府間協議を踏まえたもので，ガバナス，気候変動，生物多様性，農業，食糧安全保障及び都市開発等ナミビアの持続可能な開発に資することを目的としている。（8 日付インフォーマンテ電子版）

●中国大使，新型コロナウイルス中国責任論に反論

当国駐在張中国大使は，ニューエラ紙との独占インタビューに応え，武漢における新型コロナウイルス（Covid-19）発生以降，中国は最初のクラスターについて透明性をもって対応し，そしてパンデミックを抑え込むために即座に対応措置をとってきている旨繰り返し説明している。張大使は，中国政府は，習近平主席の指導により，ウイルスの集団発生をコントロールするために，オープンで，透明性をもったシステムをいち早く構築して，厳格な，包括的な，そして完全な措置をとってきた，こうした懸命な取り組みの結果 3 ヶ月後には新型コロナウイルスとの闘いに成功を収め，基本的に国内感染を断ち切ることができた旨強調した。

中国は新型コロナウイルスの賠償を支払うべきとの主張のあることに関して，張大使は，新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ効果的な措置をとることに失敗した一部の西側諸国が，中国に汚名を着せ，パンデミックを政治問題化し，中国をスケープゴートにしようとしていると反論した。

また，新型コロナウイルスは中国の研究所から発生したとの批判に関して，張大使は，いわゆる新型コロナウイルスが中国産であるとの説，即ち武漢ウイルス研究所がウイルスを造ったとする説については，（1）それを裏付ける科学的な証拠はない，また，（2）国際的に権威ある医療専門家集団であるランセットにおける声明文では新型コロナウイルス（Covid-19）は自然界から発生したものであり，人工的なものではないと指摘している，更に，（3）WHOのライアン博士は，多くの研究者が新型コロナウイルスは自然界に起源を持つものであると考えている旨述べた等として，これを否定した。

（11日付ニューエラ紙1面）

●米国新大使館建設で 2, 000 人の雇用創出，3 億ナミビアドルの経済効果

今月，ウィントフック市内で米国新大使館の建設工事が開始された。2023 年に完成予定で，今後 3 年間に 2, 000 人の雇用創出と 3 億ナミビアドルの経済効果が見込まれる。同建設は米国の建設会社 BL Harbert が行う。当地米国大使館は，新大使館の建設には，ソーサスフレイの砂丘の赤い砂を活用することや，敷地内の植林等には当国原産の木々や植物を活用する等，更には，太陽光エネルギーの使用や節水に配慮した施設となる予定であると説明している。（15 日付ナミビアンサン紙 3 面）

●ホセア・クタコ国際空港拡張計画に対する中国ローン

中国政府は、総額70億ナミビアドル（約3.9億米ドル（1米ドル=18ナミビアドル））のホセア・クタコ国際空港拡張計画に対し、その90%にあたる63億ナミビアドルのローンを提示してきた経緯がある。これに対し、19日、財務省関係者（シドウドゥ報道官）は、同中国政府からの融資案については、引き続き検討中であり、署名には至っていない旨述べた。

ホセア・クタコ国際空港拡張計画に対する同融資は、2018年9月の中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）において、「一帯一路構想」の名の下、中国政府よりアフリカ諸国に対して提示された総額600億米ドルの融資（当館注：そのうちナミビアに対しては6.7億米ドル（当時のレート））の一環である。ガインゴブ大統領は、同融資を歓迎するものであり、空港建設に役立つことは喜ばしい旨述べていた。

なお、当地中国大使館報道担当官は、ナミビアに対する中国からのローン実施総額は、2019年7月時点で、ナミビア政府債務（government debt）の2.6%であり、ナミビアの対外債務（external debt）の7.9%であると説明している。（20日付ナミビアンサン紙1面）

●上海市からの新型コロナウイルス対策支援

22日、中国・上海市から姉妹都市であるウイントフック市に対して、新型コロナウイルス支援としてマスク2万枚（N95マスク：3,000枚、KN95マスク：17,000枚）が寄贈され、楊（Yang）当地中国大次席とスバスバニ・ウイントフック市副市長が出席して引き渡し式が行われた。

同引き渡し式において、楊中国大次席は、1995年に上海市はウイントフック市との間で姉妹都市となり今日に至っているが、今次支援は両姉妹都市間の、更に中国、ナミビア二国間の深い友好関係の証である旨述べ、他方、スバスバニ副市長は、上海市はウイントフック市の姉妹都市の中でも最初に支援の手をさしのべてくれた都市の一つである等述べ謝意を表明した。（26日付ニューエラ紙4面）

【経済】

●一時給付金（一人当たり750ナミビアドル）を約57万6千人に支給

新型コロナウイルス対策措置に関連したロックダウンによる経済的損失補償の一環で、ナミビア政府は一時給付金として一人当たり750ナミビアドルを支給している（注：一時給付金の支給対象者は、18歳から59歳のナミビア国民で現在無職の者（あるいはインフォーマル・セクター従事者）であってロックダウンにより収入を失った者としている）。4月30日に一時給付金の申請は締め切られたが、財務省は、5日に声明を出し、970,720件の申請書の提出があり、審査の結果576,104件が承認され、総額432百万ナミビアドルの支給が承認されたと説明した。申請書が承認されなかったケースとしては、

申請者の名前が内務省に登録されている名前と異なること、あるいはIDナンバーが登録者名と異なる等様々である由。(6日付ナミビアンサン紙1面)

【その他】

●1月以降E型肝炎感染者は600人を超え、マラリアによる死者は23人

新型コロナウイルスの感染者数については、ここ30日以上変わらず増えていない。他方で、保健・社会サービス省によれば、E型肝炎感染者については、1月初旬約7,000人であったものが、4月中旬には7,642人の感染者が報告されている。ナミビアにおいては、2017年末にE型肝炎の発生が報告されてより65人の死者が報告されているが、本年1月よりこれまでに6人の死者が報告されている。

また、保健・社会サービス省は、ナミビアンサン紙からの照会に対し、マラリアについては、今年に入りこれまでのところ、10,118人の罹患者が報告されており、死者は23人となっていると説明した。(18日付ナミビアンサン紙1面)

●新型コロナウイルス感染者数は45日ぶり2人増え18人に

新型コロナウイルス感染者について、4月5日以降45日間新規感染者は確認されなかったところ、21日、シャングラ保健・社会サービス大臣は、新たに2人の感染者が確認された旨公表した。シャングラ大臣はその2人は28歳と66歳のナミビア人女性で南アフリカからの帰国後、検疫隔離施設で検査の結果、陽性であることが確認された旨述べた。(22日付ニューエラ紙1面、ナミビアン紙1面)

●新型コロナウイルス感染者は23人に

29日、シャングラ保健・社会サービス大臣は、23人目の新型コロナウイルス感染者が確認された旨発表した。23人目の感染者は、38歳のナミビア人女性で、タンザニアから帰国後、隔離期間中に検査の結果、陽性であることが判明した。(29日付インフォーマンテ・オンラインニュース)

(了)